



華となれ

宮城県仙台二華中学校
令和6年度学校だより 第17号
【発行日】 令和7年3月24日
【連絡先】 022-296-8101
【文責】 副校長 武田 誠

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

※題字「華となれ」には、社会に貢献できる真のリーダー（華＝社会の中心）となってほしいという願いを込めています。



進級おめでとうございます



本日、3月24日をもちまして今年度の授業が終わりました。

令和6年度をふり返ったとき、生徒の皆さんの胸にはどんな思いが浮かんでくるでしょうか。また、どんな出会いや発見、成長が思い出されるでしょうか。

8日（土）、3年生が立派に二華中学校を巣立ちました。証書授与時の担任呼名に対する大きな返事、希望に満ちあふれた顔で堂々と退場していく姿に大きな感動を抱くと共に、様々なことを考えさせられました。

在校生がこれから多様な経験をしながら、たくましく成長して迎える「節目の日」に向け、今すべきことは「今の自分」をしっかり見つめ、ありのままを受け入れることだと思います。生活の中で、うまくいかない日もあれば、立てた目標を達成できないこともある。友達とわかり合えない日もあれば、悲しくて辛くて涙する日もある。

しかし、生きているということは学びの連続であり、学んでいるということは成長しているということです。では、何を学んだのか。どう成長したのか。1年を終える節目に、この問いに向かってみてください。誰もが学び、成長しました。そして、常に仲間と共に学び成長したのだと確認してください。

保護者の皆様、1年間本校の教育活動への御理解と御協力をいただきましてありがとうございます。今後とも、御支援くださいますようお願い申し上げます。



「未見の我」は、幕末の武士・思想家・教育者である吉田松陰の残した言葉で、人が生まれながら持っている潜在能力のことを表しています。

人は、自分の中にある潜在能力のほとんどを使うことなく、気付くことなく人生を終えていくそうです。そんな未だ見ぬ自分のことを「未見の我」といいます。

努力と鍛錬を重ね、切磋琢磨しないと、自分の持っている「未見の我」に気付くことはできません。これからの歩みの中でみなさんが「未見の我」に出逢い、新たな成長を遂げていくことを楽しみにしています。

「未だ、見たことのなかった自分を目指しなさい。

心は熱く、一生に一度くらい本気でやってみなさい。

必ず達成します。運命を造りなさい。」

吉田松陰の言葉より



答辞

冬の厳しい寒さがいつしか和らぎ、心浮き立つ季節がやってまいりました。本日は私たちのためにこのようなすばらしい式を挙げてくださり、本当にありがとうございます。

また、佐藤校長先生、中学校PTA会長井上様をはじめ、御来賓の方々から温かい御祝辞と励ましの言葉を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

少し大きめの制服に身を包み、期待と不安を胸に初めて仙台二華中学校の校門をくぐってからはや三年。思い返せば、一つ一つのかげがえのない思い出が、つい昨日のこのように思い出されます。

入学直後、小学校との大きな違いに戸惑っていた私たち。そんな私たちを優しくサポートして下さったのは、他でもない先生方や先輩方でした。中学校生活に少しずつ慣れていくと、個性豊かな仲間たちの存在が身近に感じられ、仲間と過ごすことの喜びや安心感を抱きながら、笑顔の絶えない時間を過ごす事ができました。

「先輩」という言葉に、どこか気恥ずかしさを感じながらも、後輩を引っ張る存在でありたいと決意を新たに迎えた二年生。活躍の場が広がったことで少しずつ自信を深めていきました。北上川フィールドワークやイングリッシュキャンプなど、校舎を飛び出して触れる世界は、未知のものばかりで、私たちの視野を広げ、将来への考えを深める貴重な経験となりました。

そして迎えた、三度目の春。先輩たちから引き継いだバトンを胸に私たちは全力で駆け抜けました。仲間や自分を信じて最後まで戦い抜いた中総体、熱い戦いが繰り広げられた体育大会、歌声と共に心を一つに重ねた合唱コンクール。

全部が「中学校最後となる」各行事では、勝利に向かって各学級が多くの努力を重ねました。勝った時の感動と達成感、目標に届かなかったときに温かい言葉を掛けてくれた人たちの優しさ、このときほど仲間との絆を実感したことはありませんでした。

そしてみんなが心待ちにしていた研修旅行。研修では、広島・京都方面を訪れ、たくさんの体験をしました。調べて得られるものと、現地で自分の目で見たり、直接話を聞いたりして得られるものとは大違いで、広島での平和学習では、戦争の恐ろしさ、命の大切さについて肌で感じ、自分たちの当たり前な日常は、一日一日が特別なもののだと実感しました。その他にも、新幹線の車窓から眺める雄大な富士山、大雨の中、観光やお土産購入に奔走した宮島研修。時間を忘れるくらい笑い話し合ったホテルでの夜。どれもが心に残る大切な思い出です。

三年間の思いを胸に、今、私たちは新たなスタートラインに立っています。ここに来るまでの間、私たちは多くの方々を支えられて成長してきました。

いつもそばにいて下さった先生方。時に優しく、時に厳しく、私たちのそばで温かい言葉を掛けてくださいました。未熟だった私たちに勉強はもちろん、人としての大切なことも教え、導いてくださいました。先生方が寄り添い、私たちの背中を支えてくれたからこそ「今」があります。本当にお世話になりました。

一年生・二年生のみなさん。今まで、先輩として頼りなかった私たちに慕い、支えてくれたこと、心から感謝しています。みなさんと一緒に過ごした多くの時間をこれからも大切に、心に留めておきたいと思います。これからは、みなさんがこの中学校を引っ張っていく番です。新しく入学する仲間と共に、新しい二華中学校を築き上げてください。影ながら応援しています。

そして、家族のみなさん。ここまで育ててくれたこと、感謝しています。時には、生意気な事を言って困らせたこと。素直になれなくてぶつかったこと、でも、嬉しいときは自分のことのように喜んでくれたこと。きっと、私たちが知らない所で、たくさん心配しながらも見守ってくれていること。そして、どんなに忙しい時でも、温かい弁当が置いてあること。その変わらぬ愛情と優しさへの感謝を決して忘れません。お父さん、お母さんのおかげで、くじけることなく成長することができました。本当にありがとうございます。

一緒に卒業するみんな。三年前、顔も名前も分からなかったあの時が懐かしいと感じるほど、今ではすっかり顔なじみの仲間たち。友達と他愛のない話で盛り上がった休み時間。教え合い、学び合いながら成長を重ねた日々の授業。私にとって一つ一つの時間が宝物です。みんなとだから困難を乗り越えられた。みんなとだから学校に行くのが楽しかった。みんなと出会えて心から良かった。本当にありがとう。

これから新しい仲間と出会ったり、卒業を機に別な舞台へ羽ばたいたりする仲間もいます。今までとは違う環境が私たちを待ち受けています。でも、たとえ環境が変わっても私たちの関係が変わることはありません。これまでの充実した日々がこれからの原動力になることを私は信じています。

今、私たちの目の前には希望に満ちた道が広がっています。これから進む道は平坦な道ばかりではないでしょう。大きな試練が待ち受けているかもしれませんが、それでも、この三年間で培ったことを胸に、どんなことにでも立ち向かっていくことをここに誓います。

最後になりましたが、皆様の御健康と、二華中学校のますますの御発展をお祈りして、答辞といたします。

令和七年三月八日 卒業生代表 S S

在校生代表として、生徒会副会長のMRさんが、大変すばらしい送辞を卒業生に贈りました（表面左写真）。